

ホームページが新しくなりました

2022年3月ホームページが新しくなりました。

藤沢市民病院の取り組み「救急医療」「がん診療」「周産期医療」「地域連携」や各診療科の「診療内容」をより具体的に掲載しました。スマホでも見やすいページ構成になりました。ホームページに使用したカラーは藤沢にちなんで「藤色」です。藤色を使用したホームページは少なく、印象に残るように工夫しました。また、医療関係者専用ページも設けました。まだ発展途上の内容ですが、活用しやすく、適切な情報が発信できるよう努めてまいります。



病院ホームページ



医療関係者向けサイト

新入職員を迎えました

令和4年度が始まり、4月1日には医師59名、看護師46名を始め約130名の新入職員を迎えました。公務員としての心構えや藤沢市そして藤沢市民病院の概要、安全や感染に関する研修などを行いました。

また、看護部の部門研修では電子カルテの入力方法や高齢者や認知症の理解、さらに移乗や体位変換などの研修が行われました。コロナ禍で十分な研修ができなかった時期の新入職員ですが、学びを吸収しようという意欲も高く、これからの成長が楽しみです。



看護部部門研修

令和3年度活動目標報告会

藤沢市民病院では、年度当初に各部署が『年度目標』『中長期目標(3~4年後に目指す姿)』『目標達成にむけたアクションプログラム』を設定し活動しています。令和3年度の報告会は3日間にわたり43部署の成果や進捗状況の発表を行いました。この中で、安定した病院経営、新たな医療の取り組み、患者利便性の向上や健全経営の面で特に貢献した5つの部門が表彰されました。

院長賞 患者総合支援センター
事務局長賞 泌尿器科
院長特別賞 リハビリテーション室
新型コロナウイルス感染症対策チーム
事務局長特別賞 臨床工学室



院長賞を受賞した患者総合支援センター

藤沢市民病院

地域医療連携だより



2022年5月
Vol.50

〒251-8550 藤沢市藤沢 2-6-1
Tel 0466-25-3111(代表)
Fax 0466-25-3182(直通)

2022年度の取り組み

藤沢市民病院
院長 常田 康夫

藤沢市民病院の2022年度の診療体制、および今年度に取り組むべき課題についてお伝えしたいと思います。

まず診療体制ですが、歯科口腔外科の石川主任部長、および病理診断科の権藤主任部長が定年退職し、歯科口腔外科は岡本喜之専門医長が科長に昇任。病理診断科に関しては新たに横浜市立大学分子病理学教室から江中牧子医師が病理診断科科長に就任しました。昨年度から診療部長が兼務していた放射線治療科科長には、横浜市立大学放射線治療学教室から渡部成宣医師が就任しました。また、リウマチ科の小林幸司専門医長が科長に昇任し、リウマチ科は一人増員となりました。なお、コロナ対策のため2020年から県に出向している阿南副院長は2021年4月から医療危機対策統括官として活躍していますが、今年度からは週に一日、市民病院に勤務する日を設けることとなりました。その他の管理メンバーに変更はありません。

次に今年度の当院の重点課題についてお話しします。早いもので、中国の武漢を起源とする新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、発生から2年が経ちました。その間ウイルスは変異を繰り返し、そのたびに世界中でパンデミックを引き起こしてきました。現在日本では第6波の感染ピークが収束しかけているところですが、再増加に転じている地域も多く、まだまだこの先予断を許さない状況が続いています。したがって今年度の重点取組課題の1番目は、昨年度に引き続き神奈川モデルの高度医療機関として新型コロナウイルス感染症対策にしっかりと対応するとともに、救急医療やがん診療を中心とした地域の基幹病院としての役割を両立して行うということになります。

2番目は経営改善への取り組みになります。現在コロナ禍とはいえ、県の補助金がないと病院収支は大幅な赤字となっています。今春は2年毎の診療報酬改定の年にあたるため、コロナ後を見据えて、経営強化の



ため診療報酬改定にしっかりと対応していくとともに、デジタル化の推進等により業務の効率化に努めていきます。

3番目としては、働き方改革の推進です。2024年4月からの時間外労働の上限規制適応に向けて対応を進めていきます。

4番目としては、当院が本来持っている地域の基幹病院としての機能の強化・充実になります。当院は地域医療支援病院、救命救急センター併設病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院等地域の基幹病院として様々な機能を有しており、それらの機能の更なる強化・充実、今年度に限らず毎年継続していくのが当院の使命であります。

5番目としては、新たな医療分野への挑戦・機能の充実となります。当院は一昨年度に手術支援ロボットダ・ヴィンチを導入しましたが、適応手術の拡大に対応して低侵襲手術の推進に努めます。ゲノムセンターは更なる機能充実にも努めます。腎センターに関しては、今年度第1例目の腎移植実施を目指します。また昨年度開始した高気圧酸素療法に関しても、更なる適応疾患の拡大に努めてまいります。

最後に地域医療連携の推進に大きな貢献をしていただいている患者総合支援センターですが、今年度も地域の医療機関との連携を強化し、更なる機能の充実にも努めてまいりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年度藤沢市民病院は、新型コロナウイルス感染症対応と地域の基幹病院としての役割を両立させることを最重要課題として病院運営を行ってまいりました。それと共に、院内では様々な取り組みも行っています。そこで、今回の「連携登録医総会」は、COVID-19診療に加え、ゲノムや歯科関連の取り組み、さらに薬剤師の薬業連携について紹介させていただきました。総会の内容をより多くの先生方にお知らせしたいと考え、講演会の内容を抜粋して掲載いたします。なお、参加いただいたのは58施設でした。

令和3年度 「連携登録医総会」
 令和4年3月3日(木) 18:30~19:45
 司会・進行 山岸患者総合支援センター長

- 常田院長あいさつ
- 講演
 - 「藤沢市民病院のCOVID-19診療～2年間の軌跡～」
 臨床検査科部長 感染対策室長 清水博之医師
 - 「当院におけるゲノム診療～現状とこれから～」
 乳腺外科部長 菅江貞亨医師
 - 「周術期口腔機能管理～歯科の介入のメリット～」
 口腔外科専門医長 岡本喜之歯科医師
 - 「藤沢市の薬業連携のこれから～地域の終末期医療を担う～」
 宮澤正幸薬剤師
- 西川副院長あいさつ



後列左から
 西川副院長・常田院長・山岸患者総合支援センター長
 前列左から
 宮澤薬剤師・岡本歯科医師・菅江医師・清水医師
 (写真時のみマスクをはずしました)

藤沢市民病院の COVID-19 診療 ～2年間の軌跡～

清水博之

藤沢市民病院は2年間で485人の中等症以上のCOVID-19入院患者の治療にあたってきました(2022年3月1日現在)。この間「新型コロナウイルス感染症対策チーム」が中心となり、常にアップデートしながら治療の手引き作成や診断のための検査導入・運用法の立案、院内の確実な感染対策の実施などに取り組んできました。また、ワクチンの抗体価の臨床研究(詳細はHP)も実施しています。講演では、これらの取り組みについてご紹介させていただきました。

新型コロナとの戦いはまだまだ続きます。感染対策を遵守し、高度な医療の提供と医学発展に寄与していきたいと思ひます。

周術期口腔機能管理 ～歯科の介入のメリット～

岡本喜之

良好な口腔衛生状態で全身麻酔下手術を受けていただくことで、肺炎や術後感染症などの合併症を予防することができます。藤沢市民病院では、2020年4月から全身麻酔下で手術予定の全患者さんに対し、歯科衛生士が口腔チェックを始めています。講演では、入退院センターの口腔チェックによるスクリーニングと介入が必要な場合に口腔外科医師が診察し、入院までの期間や口腔状況等を考慮し、かかりつけ歯科医へ紹介するなどの流れについて紹介させていただきました。今後も周術期管理を充実させ、治療成績と患者さんの満足度の向上に寄与できるよう努めていきたいと思ひます。

当院におけるゲノム診療 ～現状とこれから～

菅江貞亨

藤沢市民病院は、がん診療連携拠点病院として高度ながん治療の提供に努めております。その中で2018年7月にBRCA検査および遺伝外来を開設し、2020年1月にはがんゲノム医療連携病院に指定されました。そして、2021年4月にはゲノムセンターを設置しております。講演では、現在当院で実施しているBRCA検査とがん遺伝子パネル検査について説明させていただきました。今後はさらに受検体制を拡充し、院外への需要にも対応できるよう整備していきたいと思ひます。

BRCA遺伝学的検査の保険適用

- 45歳以下の発症
- 60歳以下のトリプルネガティブ乳がん
- 2個以上の原発乳がん発症
- 第3度近親者内に乳がんまたは卵巣がん発症者がいる
- 男性乳がん
- 近親者にBRCA1/2遺伝子変異がある

卵巣がん、卵管がんあるいは腹腔がんのいずれかの既発症例
 従来からのPARP阻害薬に対するコンパニオン診断の適格基準を満たす場合

2020年4月1日 日本乳癌学会
 遺伝性乳がん・卵巣がん遺伝子の保険診療に際する準則

藤沢市民病院のゲノム診療

- 2018年7月 BRCA検査開始 遺伝外来開設
- 2020年1月 がんゲノム医療連携病院に指定
- 2020年5月 遺伝カウンセラー招聘(非常勤)
- 2021年4月 ゲノムセンター設立

ゲノムセンター長 西川正幸
 副センター長 山岸茂

佐治清敏(産婦人科、臨床遺伝専門医)
 菅江貞亨(乳腺外科、遺伝性腫瘍専門医)
 認定遺伝カウンセラー(非常勤)
 外来看護師
 DA(医師事務作業補助員)
 検査科、事務スタッフ...

藤沢市の薬業連携のこれから ～地域の終末期医療を担う～

宮澤正幸

現在藤沢市民病院の薬局には33名の薬剤師がおり、専門性を高め合いながら院内のチーム活動や地域の保険薬局との連携に取り組んでいます。藤沢市は今後も医療・介護の需要が高まる地域であり、市内の34%の薬局が在宅医療受け入れ可能薬局となっています。2019年には藤沢市薬業連携協議会を発足し、研修会等も行っています。講演では、医療用麻薬を使用するための在宅用のデバイスやがん患者さんの在宅療養支援の実際を紹介させていただきました。今後はさらに患者さんのニーズにあった薬業連携を推進していきたいと思ひます。

在宅を実施している薬局は多い

34%の保険薬局が在宅に取り組んでいます

自治体	在宅実施率
藤沢市	34%
全国平均	17.22%

「全国平均より多い!」

藤沢市薬業連携協議会主催 外来がん化学療法法の向上のための研修会

70名を超える保険薬局薬剤師・病院薬剤師が参加

2022.2.10 Zoomにて開催